

○9番 佐藤桜乎君

泉中学校3年、佐藤桜乎です。私は行橋市で行われている催しや取り組みについて、質問します。

私は昨年、科学の甲子園ジュニアに友達と参加した際、京築地区で優勝し、県大会に出場しました。それがとても楽しかったので、ことしは高校生版の科学の甲子園に出場しました。そのような行事に参加して、私は、行橋市にはこのような文化的・教育的な催しがないように感じました。

また、このような子ども議会のように、違う中学校の人と関わる機会にもなると思います。行橋市の取り組みとして、このような催しを増やすことについて、いま現在、具体的な動きがありましたら、教えてください。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 長尾明美君

佐藤議員の質問にお答えしたいと思います。まず、今お話を聞いて、いろんな大会等への取り組みに積極的に参加されていることが、よく分かりました。

今、市内で行われている小・中学生を対象とした催しでございますが、この子ども議会をはじめ、行橋市の図書館、リブリオ行橋におきまして、ゆくはし図書館を使った調べる学習コンクール、そして読書が好きな子も苦手な子も、また嫌いな子も新しい楽しみ方を知ることができるアニメーション講座、また読書だけではなくて、電波教室やプログラミング講座、天体教室等のイベント等も開催しているところです。また、歴史・文化に親しんでもらうための取り組みとしては、行橋市に古くから伝わる連歌を学ぶ連歌講座、市の専門職員が小・中学校に出向きまして、遺跡の出土品などを活用した学習体験を行う出前授業、そして夏休み期間中に文化団体と協力して行っております、陶芸・洋画・書・華道、そういった多彩な体験講座を実施しているところであります。現状の取り組みは以上です。

そして増やす取り組みがあるかという2つ目の質問でございますが、教育委員会としましては、未来を担う子どもたちに多くの体験をしていただきたいと思っておりますし、親しんでもらいたいということも考えております。そういった意味では、視野を広げる ことのできる場の提供を図ってまいりたいと考えております。

今年度は、新たな取り組みとしまして、福岡県及び、行橋市、豊前市、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町の2市5町で、京築地域未来の地域リーダー育成プログラムという京築地域における将来の地域リーダーとしての青少年の人材を育成していく事業を秋に行うことといたしました。

また、今後の取り組みについては、行橋市民大学講座というのが本市にはございまして、全8回の学習講座を2、3種類の学習内容にて年2回開催しているものなのですが、いま現在は、内容が大人向けになっております。ですから小・中学生向けの市民大学講座というのも考えていきたいと思っております。

いま申し上げたような催しについては、市報やホームページ等々で開催をお知らせしているのですが、やはり知らないといったご意見が多くございますので、皆さんが情報を入手しやすいような、また学校にもこれまで以上に情報発信していきたいと考えているところです。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

市長。

○市長 工藤政宏君

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

いま教育長のほうからも答弁がございました、教育委員会のほうでは市民大学講座、そういったかたちでも考えているということでありまして、私自身もやはり学校では学べないものを学ぶような機会、触れるような機会といったものをつくっていききたいという思いをずっと持っております。

特に行橋市は子どもたち、そして子育て世代の方々へ向けて政策を、これからさらに充実させていく必要があると思っております。その中で、行橋の教育を、ぜひ子どもたちにも受けさせたい、もちろんいま住んでくださっている皆さん方もそうですし、いま行橋市に住んでいないの方々にも、行橋市の教育を受けさせたいんだと、そういった機会をたくさんつくっていききたいというふうに思っています。

なかなか学校では学べないこと、いま文科省でも、例えばお金の教育、こういったものやっけていきたいと思いますということで、実際に今年度から高校生を中心に動いておりますけども、それ以外でも、なかなか学校では学べないんだけど、この社会を生き抜いていくうえで必要じゃないかと思われるものだったり、あるいはもっともっとプロのスポーツ選手、あるいは芸術家に触れるような機会、そういったものが提供できないか、なかなかこれは地域間格差と言いますけれども、都会のほうに住んでいる方たちは、たくさんコンサートに行く機会があったり、いろんなスポーツを見たりするような機会がありますけれども、地方のほうになるにつれて、そういった機会は少なくなっているんですね。これが実は非常に成長していくうえで、若い時の原体験といったものが、とても重要になってきます。

我々の京築のこの行橋ですと、例えば福岡のほうに行こうとすれば、1日授業をなくして、バスをチャーターして、そしてバスに乗っていくと1日がかりのイベントになってしまいますので、そういった意味では、逆に一流と言われる方た

ちを行橋に招いて来る、そういったことも積極的にやって、佐藤さんをはじめとする学生の皆さん方に、いろいろなものに触れる機会、学ぶ機会といったものを創出していきたいと思っております。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

佐藤議員。

○9番 佐藤桜乎君

ホームページなど以外で、学校などで知って興味を持ったとしても、やはり遠くに行かないといけなかったり、参加しづらい状況があると思います。

先ほどのように、中学校に招いたりする以外にも、何か参加しやすい工夫をできないでしょうか。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 長尾明美君

佐藤議員の質問にお答えします。貴重なご意見、ありがとうございます。

やはりせっかくイベント等を企画しても参加できないという状況があると、そういった声もお聞きします。今一つ佐藤議員からもご意見をいただきました。まず学校でできないかとかですね、後は近くには図書館がありますので、図書館でできないかとか、後はやはりタブレットを皆さんお持ちなので、オンラインを通じて何かリアルにできないか、そういったこともちょっと模索しながら、ぜひ皆さんに積極的に参加できるように、いろいろ考えてまいりたいと思います。

貴重なご意見、ありがとうございました。

○後半議長 遠藤優奈君

佐藤議員。

○9番 佐藤桜乎君

そのような催しが増える際には、私たち中学生の意見を取り入れて企画するなど、たくさんの工夫をしていただきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。